

＜「都政新報」令和2年9月25日発行から抜粋＞

都議会5会派幹事長に聞く 自民党／山崎一輝氏

「小池都政には柔軟に対応」

- ・新任の抱負をお願いします。

来年に都議選を控え、「挑戦そして復活」というスローガンを持って臨みたい。先輩が築き上げた歴史と伝統をしっかり継承しつつ、会派としての新機軸を打ち出し、位置付けを更に確立することを目指す。区市町村議会と国会との「三位一体」のネットワークを十分に活用しながら、現場の思いを大事にしていきたい。

- ・3定の焦点は。

一つは新型コロナ対策条例の改正だ。基本的には賛成したいが、法律に明記されていることを単純に都に置き換えるだけでは、条例をなしているのかという疑問はある。都民に対する「お願い」だけでなく、新型インフルエンザ等対策特措法との整合性も見ながら実効性を高めるため、もっと知事の権限を明確にすべきではないか。

- ・五輪延期の対応をどう考えますか。

中止は考えられない。第一にコロナ対策を確実に実施すること、その上で、コロナ禍で東京・日本がしっかりと対応して開催するという歴史に残る大会にしなければならない。仮に東京が諦めたら、日本全国に影響が波及してしまう。決定権者はあくまでもIOCであり、簡素化は必要になるが、日本・東京だからこそ開催できたという歴史の1ページにして、コロナ禍の閉塞感、経済状況を打破する起爆剤に出来ればと思う。

- ・費用分担は難題です。

まずは大会の開催に責任を持つIOCがどこまで負担をするかだ。コロナ禍という、今までにない事態だから、いきなり日本側が全部背負うのではなく、負担を求めることが大事だ。

- ・ 2期目の小池知事とどう向き合いますか

知事が再選を果たした民意は真摯に受け止めなければならない。小池都政には柔軟に対応していく。政策的には是々非々の部分はあるが、今年度予算案には補正も含めて全て賛成している。オール都庁の中で、都政を動かしているのは知事一人ではなく、事業を担う執行機関もいるわけだから、理事者との連携を忘れずに構築しなければならない。

- ・ 小池都政では初めて、党都連への協力要請が行われました。

率直に言って、開催できて良かった。コロナ対策や五輪延期、災害対策など、国の支援がなければどうにもならないこともある。党都連に対して、都議会自民党としても一緒をお願いに行く立場。都民が国に何を望んでいるかを聞く協議の場は必要だ。

- ・ 来年には都議選があります。

公認候補者全員の当選を目指す。前回の選挙からの捲土重来を狙う人も数年間、地元を歩きながら信頼を獲得できるように頑張っている。7月の補選では4選挙区で全勝した。一つひとつの積み重ねを大事にして臨みたい。

- ・ 公明党との関係について。

補選では4選挙区で推薦をいただき感謝している。自公連携は、都議会だけではなく、都連、党本部と三つのレベル感での協議が更に重要になるのではないか。都議会では国の連立政権よりも長い歴史がある。先を考えて、前向きな対応を取りたい。

- ・ 菅政権が誕生しました。

2年前の国との実務者協議会の復活に当たって、一番汗をかいてくれたのが当時の菅官房長官だ。石原都政下で立ちあがった実務者協議会は税の偏在是正措置に対し、五輪と三環状道路、羽田空港の国際化の3本柱で実を取ることができたが、五輪招致決定後、五輪シフトで他の事項がストップした経緯がある。我々としては五輪だけでなく、東京を安全・安心で災害に強い都市にしていくためには国、菅総理、そして政権との連携が必要だと考えている。